



特 許 願 (々) 後記号なし

昭和 49 年 6 月 13 日

特許庁長官 斎藤 英雄 殿

1. 発 明 の 名 称 マイクロインテグレーション
停止原因別表示装置
2. 発 明 者 トコヤマ シンイチロウ
住 所 埼玉県所沢市緑町 1 丁目 15 番地
氏 名 田 村 作 夫 (ほか 名)
3. 特 許 出 願 人 ミクロン機器株式会社
住 所 東京都大田区千鳥 2 の 9 の 18
名 称 代表者 須 山 清 一
代 表 者
4. 代 理 人 千 156 方式 49-67332
住 所 東京都世田谷区桜丘 2 丁目 6 番 28 号
氏 名 (6787) 樺 山 亨
5. 添付書類の目録
(1) 明 細 書 1 通
(2) 図 面 1 通
(3) 願書副本 1 通
(4) 委任状 1 通

49-067332

明 細 書

発明の名称 停止原因別表示装置

特許請求の範囲

織機において各停止原因によりそれぞれ作動する複数の入力要素と、この複数の入力要素の出力を文字符号に変換する回路と、この回路の出力により文字を表示する表示器とを具備することを特徴とする停止原因別表示装置。

発明の詳細な説明

本発明は織機において停止をその原因別に表示する装置に関する。

従来、織機においては停止をその原因に無関係に 1 つのランプで表示するか、又は停止を全く表示しないかしているため、停止原因がわからなかった。したがって織機を再運転する際には織機を調べて停止原因を確認し、すなわち誰かが操作して停止させたのか、横糸のよこ入れミスによるのか、縦糸の切れによるのか、右側耳糸の切れによるのか、左側耳糸の切れによるのか、糸端処理糸の切れによるのか等の原因を確認し、必要な処置

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 50-157651

④ 公開日 昭 50. (1975) 12. 19

② 特願昭 49-67332

② 出願日 昭 49. (1974) 6. 13

審査請求 未請求 (全 2 頁)

庁内整理番号

7233 35

⑤ 日本分類

46 A2-

⑤ Int. Cl²

D03D 51/00

をしてから再運転しなければならず、織機の運転が煩雑である。

本発明はこのような点に鑑み、停止原因別表示装置を提供しようとするものである。

以下図面を参照しながら本発明の一実施例について説明する。

断片織機において、停止原因別に検出器 1/1~1/n を設ける。例えば断片織機を手動で操作して停止させるためのスイッチ 1/1、横糸のよこ入れミスを検出する検出器 1/2、縦糸の切れを検出する検出器 1/3、右側耳糸の切れを検出する検出器 1/4、左側耳糸の切れを検出する検出器 1/5、糸端処理糸の切れを検出する検出器、予定長さの織上げの終了を検出する検出器 1/8 等である。これらの検出器 1/1~1/n の出力はメモリ 2/1~2/n で記憶し、その出力を断片織機の停止回路に加えて停止させると共にエンコーダ 3 で符号化する。この場合例えば停止原因を数字 1, 2, 3, ... 又は他の文字に対応させておき、メモリ 2/1~2/n の出力により停止原因に応じて符号化を行う。エンコーダ 3 の出力は多数の断片織機

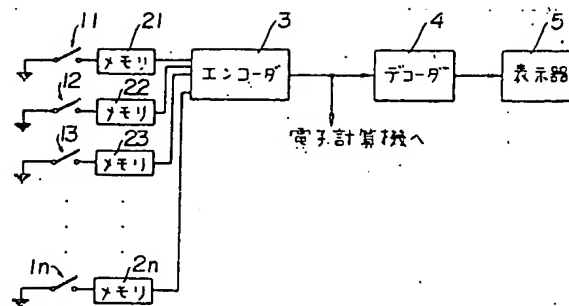
の集中制御用電子計算機に送ると同時にデコーダ
4で復号し表示器5に加えて停止原因を表示させ
る。この表示器5は数字表示管を用いて各停止原
因を数字で表示してもよく、又は文字表示器を用
いて各停止原因を他の文字で表示してもよい。

以上のように本発明による停止原因別表示装置
によれば織機の停止を原因別に表示するので、織
機の再運転がすぐでき、織機の運転がしやすくな
る。又、表示器で停止原因を文字により表示する
ので、表示器が簡単になる。

図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示すブロック図である。

1/1~1/n・・・検出器、2/1~2/n・・・メモリ、3・・・
エンコーダ、4・・・デコーダ、5・・・表示器。



代理人 樽 山

